



掛合中だより



雲南市立掛合中学校
第27号
2026.2.10(火)
文責 根本登三男

学校教育目標：ふるさとを愛し 自他を大切にしながら たくましく未来を切り拓く生徒の育成



「学校公開日」～学校評価・保護者アンケートから～

2月3日(火)の「学校公開日」にはたくさんの保護者様にご来校いただきありがとうございました。どの学年も総合的な学習の時間に進めてきた探究活動(ふるさと学習)の成果発表でした。親子ペアで活動したり、グループ対話があったりと、いつもと異なる授業スタイルはとても好評でした。令和8年度のPTA役員も無事に決まり感謝申しあげます。なお、今回の事後アンケート及び昨年末に実施した学校評価において「学校公開日の機会を増やしてほしい」というご意見をいただいております。このことについては、学校運営協議会(掛合の子どもを育てる会)の中学校評価部の委員様からも「地域に開かれた学校」についてご助言がありました。今後、実施の方法や時期について検討し、令和8年度の年間行事計画に位置づけてまいります。

卒業証書の思い出

～心を込めて押印～

間もなく卒業のシーズンを迎えます。どの行事にも大切なねらいがあつて「この行事が一番」とか「学校で最も重要な…」というのではないのですが、あえて順番をつけるのなら、どの教職員も「一番は卒業式」と答えると思います。事実、私も若い頃に校長先生や先輩からそう言われてきました。掛合中でも、忙しい業務の合間を縫って、少しずつですが心を込めて準備を進めています。もちろん卒業生のためですが、その生徒たちに誰よりも愛情を注いできた学級担任や学年部の先生方への思いも深いです。私の初任校では、若手教員が卒業証書一枚一枚に学校印(←これが一番大変)、校長印、そして卒業生台帳と重ねる印(割印)を押すのが伝統になって

いました。夜な夜な校長室に集まって証書に型紙をあてて慎重に作業が始まります。押印のあと白い粉を振りかけ、乾いてから息を吹きかけて払い落した記憶もあります。朱が鮮明に浮き上がり見栄えがとてよくなるのです。今では、初めから印刷してあってそんな作業はありませんが卒業証書を見るたびに昔のことを思い出します。



「卒業証書」は全課程を修了し、その学校の卒業生であることを証明する大切なものですが、受け取ってから見返したことがある人はほとんどいないと思います。私もそうなのですが、先日、実家に長くいる時間があつたので久しぶりに筒から出してみました。証書はまっさらなままで、卒業式のあと友だちとおしゃべりをしながら下校したことを思い出します。引き出しには高校の卒業証書もあり、私に教員になることをアドバイスしてくれた図書館職員の顔が蘇ってきました。大学の卒業証書は教員になって以来ずっと持ち歩いていて、今は校長室のロッカーに入っています。身近に置いておくのには大きな理由があるのですが、それはまたの機会に……。

皆さんもタンスの奥にしまってある「卒業証書」を出して、あの頃を思い出してみませんか。

掛合太鼓ジュニアに魅了そして大絶賛



1月31日(土)、チェリヴァホールで開催された雲南市PTA連合会研修会のエキシビションに「掛合太鼓ジュニア」が出場しました。会場に響き渡る太鼓の音、ジュニアの真剣な眼差し、3日(火)の小中校長会では、初めて太鼓の迫力を肌で感じた校長先生方から大絶賛のお言葉をいただきました。とても嬉しかったです。太鼓チームは、3月22日(日)に東京都府中市で開催される全国大会に向けて、更に練習に熱が入ります。

出会は人生を豊かにする



校長のつぶやき㊦(「ホッとする環境」!!)

雲南市にきたからには、もっと早く施設見学や説明会に参加したかったのですが、先日ようやく「おんせんキャンパス」(雲南市教育支援センター)に行くことができました。学び舎はもちろんですが、その周辺も何かホッとする環境で、掲示物からは学んでいる子どもたちの声が聞こえてきそうでした。前任校で新採3年を終えて「おんせんキャンパス」の職員になった若者にも会うことができました。学校の時のように「キャンパス」でも子どもたちと一緒に楽しく勉強したり遊んだりしていると聞いて安心しました。(つつく)

2月1日付で多賀正輝教諭が復帰し、それに伴い、須谷守講師(3年数学)と徳島末美さん(校務支援員)とお別れすることになりました。一緒に過ごしたのはわずか5か月間でしたが、「出会は人生を豊かにする」ということを改めて感じさせられました。2人ともそんなお人柄でした。ぜひ卒業式に来ていただきたいです。

PS 須谷先生の古典的なギャグに反応する3年生が可愛かったです。